

先月なんて1冊でしたよ。通常なら2冊の入荷ですから、いきなり増えておりました。店長の方針が変わったのでしょうか? 今月も11月9日の8時にはしっかり購入し、会社へ出勤しました。来月号(1月号ね)は何冊店頭に並んでいますかね? 少々楽しみです。ではバイナラ、ラナイバ…。

(東京都/テヘポロ君)

何冊でした?

1500万円:普通の人なら…

●戸建てかマンション購入:ですよね、この額は。ホントにワクワクすると、とても悪い特集。誘惑されます! でも、そうならないのは私も含めてエフロード読者の心情ですな。いつ見ても何年経っても新鮮に映るランボたち。フェラーリだとV8になっちゃうのかな? TRとかならいけるでしょうが、ランボよりも古臭さを感じてしまう気も。それはそれで楽しい生活にはなるんじゃないかと。ところで、今年の年末ジャンボは1等4億円の前後賞各1億円。本数は少ないが6億円。いつもの夢ですね笑。話を戻して、1500万円を目一杯使ってしまうと、維持費の件もあるから困ってしまう。これは一般サラリーマンの考え方なのか? 貧乏性なのか? MP4-12CSパイダーの発売も気になると、新車購入の頭金になってしまうか。まあ、GT-Rを買うなんて間違った使い方は絶対にしませんけどね(笑)。娘悪魔集会、通称名は本人が付けたんでしょか? 「ドスの効いた声」なんて紹介にあると、話題の某事件の首謀者を連想してしまいますよ。もう少し可愛い表現にしてあげれば…と思ってしまうました。「死ぬまで生きられる」って



昔は2000ccオーバーはかなりのハイチューン・エンジンというのが相場でしたが、このエンジンは圧縮も低めでカムも大人しいやつを組んだ完全な耐久仕様。よく最高出力を聞かれますけど、計ったことないので分かりません(笑)。



まずはエンジンをバラすために、衛くん和森口さんでエンジン・スタンドに取り付けることにしました。ビートルのエンジンはクランクケースがマグネシウム合金製で超軽量なので、大人2人で持ち上げることができます。



スタンドに装着したら、周囲のパーツを順番に外してゆきます。エンジンの上に突き出している四角い箱のようなものはエンジンオイル用のオイルクーラー。ピンビーにはややサイズが大きいタイプ4エンジン用を使用しています。



これはオイルを抜いているところ。エンジンの下の四角い部品はオイル増量とコーナリング時のオイル切れ防止のために増設したオイルサンプ。ノーマルのビートルのエンジンでは、オイル量はたったの2.5リットルしかありません。

F-ROAD ビンビープロジェクト Vol.27 SUPER-BEETLE PROJECT 3rd SEASON

文●半谷範一 撮影●森口信之
取材協力●ベストインポートサービス(BIS)
tel:048-282-6119
http://www.vw-bis.co.jp

エンジン組んでレースに出て4年間ノーマンテだったピンビーのチューニングエンジン。調子を取り戻すためバラしてみることになりました。BISもる君、半谷さん、メカ森口さんの3人で作業します。



頻繁に出るアフターファイアの原因究明 4年間封印されていたエンジンをバラす

ピンビーに搭載されていた20007ccエンジン(ボア90・5mm×ストローク78・0mm)は、谷塚駅の近くにある空冷VWの専門店「ワイルドシング」で、2008年シーズンのワイズカップ4時間耐久レース用として作って作ったエンジンでした。

このエンジン、耐久用なのでレース用とはいっても比較的チューンが低いマイルドなエンジンなのですが、ここ最近、ずっと街乗りメインで使っていたこともあってか、頻繁にアフターファイアが出るようになってきちゃいました。どこからかエアを吸っていないか確認してみたり、何度かキャブレターを調整してみたものの、中々原因が特定できません。困ったな。

さすがに街中でパンパンいいながら走っていたら、整備不良車でお巡りさんに捕まっちゃう可能性だってあるので、免許の点数があまり残っていないQ編集長としても早くなんとかしたいところでしょう。

そういえばこのエンジン、作ってから4年間、一度も開けてないよなあ。降ろしたついでにちよつと中の状態を確かめてみようか? というわけで、詳しくはキャプションにて。

当たり前じゃん！なんてツツコミ所もあり、隅々まで油断できないのがエフロードの面白さですね。あ、そういえば雪国のスノーパーカーオーナーさんって、冬はやっぱり冬眠ですか？

（静岡県／ヒーくん）

■冬眠でしょう。雪道をスノーパーカーでかつ飛ぶのもカッコいいけど、まあ無理だね。6億円か。誰かは当たるんだからねえ。3本当たんねーかな。

■今月は牛のつとられたあゝ

●牛大好きな人にはたまらない号じゃなかったでしょうか。もつと外車が見たい人にとっては残念！全体を通して読むと、牛とミートینگで一冊って感じがしました。特集の牛はともかく、レギュラー記事が弱くなっている気がします。ピンビー企画、記事の扱いが小さすぎ。エフロードの企画なんだから扱いは大きく！Tスー研、やっぱないと残念。不定期でいいのでたまにはお願いします。

（愛知県／Nちゃん）

■諸々了解です。

■いつも大変興味深く読んでいます

●V12ランボ特集記事、とても良かったです。ランボルギーニを代表する名車、カウンタック、ディアブロ、ムルシエラゴの詳細な情報は最高です。スペシャルシヨップのプロから見たお話し、オーナー対決記事、ランボルギーニの世界観が誌面いっぱい溢れていて大変勉強になりました。これからも誌面にてランボルギーニの魅力をたくさん取り上げて下さい。

（名古屋／洲崎忠典）

■いつもありがとうございます。ランボに限らず、全ての外車の魅力を伝えていきたいと思っています。



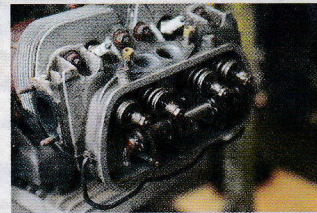
こうやって清掃することで、ダメージや故障の原因を発見することも少なくありません。でも今回は特に問題になるような部分はありませんでした。エンジン本体は機能的にはかなり良い状態だとして差し支えありません。



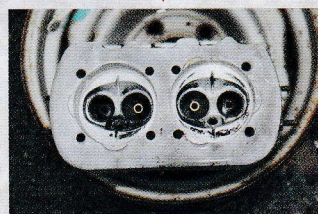
これがピンを抜いた状態。すっかり忘れていましたが、ピンビーにはCBパフォーマンスのH断面コンロッドを使用していました。ノーマルのコンロッドも（長さはともかく）強度的にはそこそこのチューニングに耐える強度があります。



こちらはシリンダーの状態を確認しているところ。内部のホーニングの痕もまだきっちり残っているので問題なく使用できます。ビートルの場合、痛んでいてもボーリングせずにピストン&リングごと新品に交換するのが普通です。



バルブカバーを開けるとタペットが出現します。カバーはネジ留めとかじゃなくて、下ににぶらさがっている？太い針金みたいなやつで押つけて固定されているだけ。間にはコルクのガスケットが入っているだけです。



落ちないカーボンに関しては、専用のカーボン落しを使用します。燃焼室も良い状態でクラック等は皆無。バルブと反対側に彫られた溝は、ワイルドシングの秘密のチューニング？効果はともかく、悪さもしませんでしたね。



手で触った感じでは、バルブガイドの固着もガタもありません。そこでバルブの当たりを確認するために、燃焼室にオイルを入れてみました。昔ながらの方法ですけど、やはりこれが一番分かりやすいのかな？



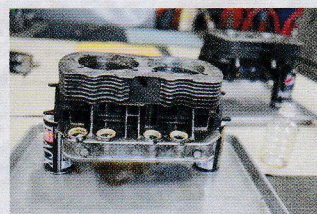
バルブの当たりやバルブガイドのガタを確認するためには、バルブを外さなければなりません。ディープソケットとハンマーを使う荒業で外すこともできますけど、こういうツールを使って外すのが定石です。



衝んの指示に従ってヘッドの取り外しを開始。ヘッドは4本のクランクケースから出ている8本のボルトで、間にシリンダーを挟み込むような形で固定されています。シリンダーは固着していることが珍しくありません。



ピストンは元々きれいな状態でしたが、ブラシでカーボンを落としておきました。裏側を見たらちゃんと重量合わせをした跡を発見。手を抜かず、真面目に作られたエンジンであることは間違いありませんね。



3番のインテーク側から少し漏れましたが、問題となるほどではありませんね。エキゾーストバルブの動きや当たりが悪いとアフターファイアが出ることがありますが、今回はそれが原因ではなかったということになります。



ビートルのヘッドはアルミ合金製。薄い冷却用のフィンも付いているので、決して手荒な扱いをしちゃいけません。でも中古車のエンジンを降ろしてみると、何かの作業でフィンが欠けてしまっているようなクルマをよく見ますね。



ボルトを緩めて引っ張ると...シリンダーと一緒に引きちぎりました(笑)。このエンジンはかなりきれいですけど、街乗りで何10万キロも走ってきたエンジンはにじんだオイルでデロデロになっているのが普通です。



ヘッド周りに何も問題がなかったため、腰下（クランクケース側）に問題がある可能性はないでしょう。わざわざケースを割る必然性がないので、このままシリンダー&ヘッドを組みつけることにしました。まだまだ十分使えます。



外したヘッドをシコシコ洗う私。やっぱりお掃除はエンジンOHの基本です。エンジンがきれいになると、それだけで体感馬力が10馬力は違います(笑)。吸気ポート、思ったよりカッツリと削ってありました。



ピストンからピストン・ピンを抜くためには、工業用ドライヤーなどを使用してピストンを加熱してあげる必要があります。そのまま叩くとクランクのメタルを傷めるので、一度外したシリンダーをガイド代わりに使用します。



ピストンとピストンリングの状態を確認する山崎社長。「これなら全然問題なさそうですね」。とりあえず目視で分かるような損傷は皆無でした。ヨカッタヨカッタ。でもケースを割るためにはピストンも外さなければなりません。